

第3回資源循環ワーキンググループ 議事録

日時：2024年2月19日（月）14時00分～16時00分

会議方法：オンライン開催

■出席者：（敬称略）

委員（五十音順）：浅利美鈴（総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター教授）、伊藤武志（大阪大学社会ソリューションイニシアティブ教授）、岡山朋子（大正大学地域創生学部教授）、崎田裕子（ジャーナリスト・環境カウンセラー）、原田禎夫（同志社大学経済学部准教授）

オブザーバー：消費者庁 消費者教育推進課 食品ロス削減推進室、農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室、経済産業省 商務・サービスグループ 博覧会推進室、経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課、国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課、環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室、大阪府 環境農林水産部 脱炭素・エネルギー政策課、大阪市 環境局 総務部 企画課、

■議事：

1. 開会
2. オンライン上の発言における諸注意と緊急連絡先
3. 本日出席委員の確認
4. 議事

4.1 大阪・関西万博の直近の準備状況等について（資料 3-2-1、3-2-2）

崎田委員長 それでは、議事に入りたいと思います。まず、「4.1 大阪・関西万博の直近の準備状況等について」事務局から説明をお願いいたします。本議事においては、「大阪・関西万博の直近の準備状況」、「パリオリンピック・パラリンピック 2024における資源循環に関する検討状況」についての二つの資料に分けて事務局よりご説明いただきます。質疑応答については、最後にまとめて行います。まずは「大阪・関西万博の直近の準備状況について」事務局より説明をお願いします。

事務局 博覧会協会の二見から、大阪・関西万博の直近の状況についてご説明いたします。大阪・関西万博の開催まで、本日であと 419 日となりました。大阪・関西万博の準備は着々と進んでおり、直近の準備状況についてご紹介させていただきたいと思

ます。こちらのトピックについて資料を用意しています。主なものをピックアップしながら簡単にご説明させていただきます。

3 ページですが、会場整備工事の進捗状況です。昨年 12 月 25 日に万博会場の工事現場をドローンで撮影した写真です。1 周 2km、高さ 12~20m の大屋根リングが徐々に立ち上がっています。一部のパビリオンも建設工事が進んでおり、右側には、大阪府・大阪市の大阪ヘルスケアパビリオンや関西広域連合の関西パビリオンの様子もご覧になれます。4 ページは反対のほうからの写真です。

6 ページですが、公式に参加表明をした公式参加者は今年 1 月 16 日時点で 160 か国・地域、9 つの国際機関となっています。

7、8 ページは、公式参加者のパビリオンの一部をご紹介します。次に、国際会議 IPM 2023Autumn を昨年 11 月に開催しました。参加を表明している国・地域や国際機関の約 500 名にご参加いただき、パビリオンの内外装や展示工事、運営準備、催事の計画など、多岐にわたる事項について案内と議論を行いました。また、気候変動と資源循環に関する特別セッションを実施し、大阪・関西万博全体の脱炭素と資源循環に関する方針や主な取組などを紹介しました。

次に、テーマ事業「シグネチャープロジェクト」についてご紹介します。8 名のプロデューサーによるシグネチャーパビリオンとイベントで構成されています。いずれも「いのち」をテーマにしており、その展示・建築の具体像も徐々に明らかになってきています。

次に、企業・団体による民間パビリオンについてご紹介します。「循環」に関しても様々な構想が明らかにされており、「循環」というワードをテーマ自体に掲げているもの、パビリオンの建築にリサイクル材料や端材・残材を使用しているもの、木材、紙や竹などを構造材として使用するもの、パビリオンそのものを移設して活用する予定であるもの、膜構造とすることで建材自体の使用を抑制しようとするものなどがあります。

次に 15 ページです。昨年 10 月には民間パビリオン構想発表会が 2 回に分けて開催され、パビリオンの具体的な構想の発表が行われました。

16 ページについては、日本館についてのご紹介となっています。内外壁に使用される国産 CLT（直交集成板：Cross Laminated Timber）については、循環の観点から、会期後に再利用するスキームが検討されています。

次に、大阪ヘルスケアパビリオンについては、「REBORN」をテーマに、「健康」という観点から、大阪の強みを生かし、わくわくしながら明るい未来を感じられるパビリオンをめざすことになっています。

関西パビリオンは、関西広域連合と参加府県が魅力ある関西を表現し、関西各地への来訪促進をめざすものとなっています。

次に、未来社会ショーケース事業についてご紹介していますが、今回は説明を割愛いたします。

次に、テーマウィークについてです。テーマウィークの概要とテーマ構成についてご紹介します。テーマウィークとは、世界が半年の長きにわたり同じ場所に集う万博の特性を活かし、地球的規模の課題解決に向けて英知を持ち寄り、対話による解決策を探る取組です。約1週間ごとに、地球的課題をテーマに設定し、解決策を話し合う「対話プログラム」や行動のための「ビジネス交流」などが実施される予定となっています。また、「テーマウィークコネクト」として、万博会場外のプログラムと連携して、日本全国から参加可能な取組もスタートしています。

公式行事や催事の種類についてご紹介します。多くの来場者に楽しんでいただくため、大阪・関西万博にふさわしい多彩な催事が検討されています。

.27 ページでは、催事会場についてご紹介しています。催事施設の正式名称を、図にお示しのとおり決定しました。また、EXPO ホール、EXPO ナショナルデーホール、EXPO アリーナ、EXPO メッセの4つの催事施設については、公募により愛称が決定される予定です。催事場の外観・内観のイメージをご紹介しています。

次に、会場整備参加・運営参加についてご紹介します。全ての来場者が快適に過ごせる会場づくりを行うため、大阪・関西万博の会場整備及び運営に必要な施設・物品、サービス等の協賛による提供を募るものです。これまで計5回の公募を通じて、幅広い様々な業種の企業・団体さまからお申し出をいただいています。現在も多くの企業・団体さまと協議中で、すでに130以上の企業・団体さまからのご協賛が決定しています。

次に、会場内エリアごとの立地特性と営業施設の業態イメージをお示した図をご案内します。また、34 ページには、営業施設の配置図が掲載されています。会場全体にわたって飲食・物販の店舗が配置される計画となっており、これ以外にも一部のパビリオン内に飲食・物販等の店舗が設置される予定です。営業施設は基本的に公募により決定していくことになっています。飲食店舗・物販店舗それぞれの種類（カテゴリー）・店舗数・店舗面積をお示ししています。公募を行う営業施設

は、飲食店舗が 63、物販店舗が 21 の予定となっています。飲食店舗については、大勢の来場者に対応できるよう、ラウンジ&ダイニング、レストラン/カフェテリア、フードコート、カフェ、ファストフード、キッチンカー等を予定しています。キッチンカーは 6 エリアで合計 24 台を想定しています。営業施設の公募スケジュールです。公募は基本的に一次と二次に分けて実施することにしており、一次公募の店舗が近々決定する予定です。また、二次公募の店舗は 2 月 16 日金曜日に公募を開始したところで、スケジュールなどが少し変わっており、二次公募の店舗は 4 月下旬に決定する予定となっております。

次に、大阪・関西万博ボランティアの公募についてです。多様な方々に万博に参加いただけるチャンスということで、今年 1 月 26 日に募集を開始したところです。次のページに募集概要をご紹介しますが、活動時間は、1 日当たり 3~6 時間程度、期間中 5 日以上、募集人数は、会場内で約 10,000 人、まちなかや大阪ヘルスケアパビリオンで約 10,000 人、全体で約 20,000 人を予定しています。募集期間は 4 月 30 日までです。活動イメージにもありますように、来場者の案内・歓迎や美化活動のサポートなどがボランティア活動の対象となっています。広報ツールとしてポスター・リーフレットを用意しています。掲出にご協力いただける方は担当までご一報いただければありがたいと思います。また、ご関心がおありの企業や大学などには、概要や魅力をよりお伝えできるように、出張説明会を開催しますので、こちらも担当までご一報いただければと思います。

次に、「TEAM EXPO 2025」プログラムは、会期前より、2025 年に向けて、多様な参加者が主体となり、多彩な活動で大阪・関西万博とその先の未来に挑む、みんながつくる参加型プログラムです。共創チャレンジと共創パートナーの枠組みがあり、昨年 12 月末時点で、共創チャレンジは 1,512 件、共創パートナーは 363 件の登録をいただいています。「TEAM EXPO 2025」プログラムの参加者の一部については、万博会場で活動の成果を発表していただくことにしています。また、「TEAM EXPO 2025」プログラムに登録された活動の中から、「実践的で世界各地で再生可能な、将来のために活用できる特に優れた好事例」を「ベストプラクティス」として選定し、万博会場内の「TEAM EXPO パビリオン」内に展示することにしていきます。ベストプラクティスは、国際的なプログラムであり、取組を世界に PR できるものですので、たくさんのご応募を期待しています。

大阪・関西万博の想定来場者のうちインバウンドは 350 万人と想定しています。各地域で地域の魅力を体験するツアーを造成することなどで、各地域にも誘客し、地域経済の活性化に繋げる取組を進めています。万博+観光ポータルサイトの概要をご紹介します。万博関連の旅行商品などを登録し、地域別・テーマ別での検索や予約が可能な観光ポータルサイトを今年 4 月に開設する予定としています。今年 1

月に旅行商品等の登録申請の受付を開始したところです。たくさんの登録を期待しています。

最後に入場券についてです。昨年 11 月 30 日より、入場チケットの前売販売を開始しました。入場券種・料金を表でお示ししています。入場チケットは、電子チケットとなっており、スマートフォンやパソコンから購入できます。また、販売代理店からも購入できるようになっています。

最後に、キービジュアル&キャッチコピーをご紹介します。皆様もお目にしていたことがあるかと思いますが、メインキャッチコピーは「くるぞ、万博。」ということで、交通機関などのデジタルサイネージのほか、ポスターやステッカーなどにも展開しているところです。

以上、駆け足でご説明させていただきましたが、大阪・関西万博の直近の準備状況についてのご紹介は以上です。

崎田委員長 ありがとうございます。施設整備から催事の内容。そして様々な運営の状況など、非常に進んできた、という印象ですが、後程また質問等があればお受けしたいと思いますので、先に「パリオリンピック・パラリンピック 2024 における資源循環に関する検討状況」に関してご報告いただければと思います。よろしく申し上げます。

事務局 引き続き、パリオリンピック・パラリンピック 2024 における資源循環に関する検討状況について公開ベースの情報に基づいてまとめたものを共有させていただきます。パリオリンピック 2024 では社会的課題・環境的課題に対して二つの方針をたてており、それを基にそれぞれ三つの詳細化された戦略を立案し大会方針に反映しております。資源循環に関する項目については、着色している「環境に責任を負い、持続可能な解決策を届ける大会にする」という項目と、「環境配慮型社会への変換を促す」という二つの項目がございます。

また、パリオリンピック・パラリンピック 2024 では、環境に配慮するための取組が大会開催前から設定されており、その中でも、「大会会場の建物」の項目や「食品廃棄物と使い捨てプラスチックの制限」の項目については、資源循環との関わりが大きい項目となっています。

続きまして、先進的な事例をご紹介します。パリオリンピック・パラリンピック 2024 では、すべての会場で、①生物多様性、②景観、③環境の健全性、④カーボンフットプリント、⑤サーキュラーエコノミーの 5 つのカテゴリーに関する意思決定ツールの導入であったり、2024 年開催までの準備期間や運営中に発生した製品・素

材・廃棄物等のフットプリントを同定して、資源利用をクリアにすることであったり、ステークホルダーと準備するアクションプランを設定し、より詳細な指標を大会側が提示する廃棄物ゼロのポリシーを掲げたりといった事例がございます。

最後に、これまでの内容と一部重複するところはございますが、カテゴリ別取組の詳細をまとめたものとなります。中でも、「建材・什器・備品のリユース」、「食品ロス削減対策」、「マイボトル・給水機」などの取組事例に関しては、大阪・関西万博で検討している取組も複数あり、パリオリンピック・パラリンピック2024の資源循環における検討状況の動向には引き続き注視していこうと考えております。

崎田委員長 ありがとうございます。2024年パリオリンピック・パラリンピックの情報など、お話をいただきました。この二つのお話に関して質問、ご意見などをいただきたいと思います。今、パリオリンピックの話もありましたが、東京オリンピック、そのあとのパリオリンピック・パラリンピック、そのあとの万博と、世界のメガイベントがよりよい大会運営をしていくことは非常に重要なので、このような情報提供は大変ありがたいと思います。それではご意見、ご質問をいただければと思います。

浅利委員 パリオリンピックの話もありましたが、色々な万博のニュースがある中で、かなり環境は頑張っているなと思っています。特に資源循環に関しても大変ご苦労されながらも、いろいろチャレンジしていただいていますので、ぜひ積極的にもっと主流的な感じで発信していただきたいなと思います。あと、いくつかのパビリオンがかなり資源循環を意識していると思います。特に、中島さち子氏や河瀬直美氏のシグネチャーパビリオンでの、DPP（デジタル製品パスポート）の実施や、廃校を使うということ自体もアップサイクルであるため、そういった点もうまく絡めて、目立つような形での発信を、バイリンガルでぜひお願いしたいと思います。

崎田委員長 他の委員の方いかがですか。伊藤委員お願いします。

伊藤委員 今のパリオリンピック・パラリンピックの件ですが、情報ありがとうございます。私も丁寧に見ることができていないので、現状までの大阪・関西万博の状況と、パリの状況或いはその他類似の取組の比較のようなものは、最終的には見えるようになった方がいいのではと考えております。難しいところは難しいところで理由も説明し、今後につなげるということが大事かと思っておりますので、比較表のようなものが最終的にはどこかで見えたほうがいいのかと考えております。また、資料の最後の方に、Expo2025 Official Experiential Travel Guides がありましたが、これが観光寄りの表現になっていて、それはそれでよいですが、より良い社会をつくるという万博の目的で言いますと、万博の会場内で頑張っていることと同時に、全国

でサステナブルな社会を作ることが色々な自治体で行われていたりするものなので、そういった色がこの Travel の中に出てくるのかと思っています。その辺りは今後のことかもしれませんが、ぜひこちらの取組の中からも働きかけ、そのような支えるツアーみたいなイメージですが、広がっていけばと思っています。以上です。

崎田委員長 大事なご指摘ありがとうございます。では原田委員よろしく願いいたします。

原田委員 先ほどパリオリンピックの件が触れられていましたが、スポーツの環境対策をお手伝いしていることもあり感じましたが、海外、特にヨーロッパやアメリカで、サステナビリティは議論の 1 丁目 1 番地となっており、ビジネスももちろんですし、スポーツに関する大きなイベントに関しても、サステナビリティ抜きには議論が成り立たず、まずサステナビリティをどう実現していくか、具現化していくかが大事な課題になっている中で、浅利委員もおっしゃっていたように、一生懸命頑張っているのは十分理解している上で、まだまだ日本での報じられ方は少ない気がしています。万博開幕まで 500 日を切ったということですので、こういう取組をもっと前面に出して多くの方に知っていただくことが、広報ということで大事なと感じています。また、伊藤委員からご指摘のあった Expo2025 Official Experiential Travel Guides のところですが、これも万博の会場だけではなく、他の地域とも連携してということですので、万博の会場の中では調達コードなどを議論してきましたが、例えばこういう Expo2025 Official Experiential Travel Guides に掲載していくときにも、こういう条件に合致したら掲載できます、或いはこういう条件を満たしてください、ということを経験豊富なコンテンツを提供して下さる皆さんにしっかり方針などをお示ししていくことが、万博のレガシーを残す、地方にまで波及させていくことにも繋がると思いますので、その辺りもよろしく願いしたいと思います。ひとまず以上です。

崎田委員長 ご指摘ありがとうございます。岡山委員お願いします。

岡山委員 今までも言い続けていて大変申し訳ないですが、万博を大阪で今やるからにはできるだけごみをそもそも出さないという仕組みを全面的に PR したいと個人的にずっと思っており、そうあるべきだとこれまでも申し上げてきました。その一環として、例えば、リフィルできる給水機がどこに何か所あるのか、各パビリオンに 1 か所ずつあるのか、それとも外にどれだけあるのかといったことも含め、来場者はマイボトル持参で来て欲しいというソフトの部分を PR していくことも重要だと思いますが、そのあたりはどのような状況になっていますでしょうか。

崎田委員長 ありがとうございます。内容によってはこの後の資源循環の報告やグリーンビジョンの改定に細かく載っているところもありますが、今の段階で皆さんのご指摘は非常にごもっともなご意見が多いと思います。岡山委員もありがとうございます。事務局に伺います。今皆さんから、もっと発信力を持って、しっかりと資源循環やサステナビリティなどの頑張っていることを発信したらどうかという点や、パリオリンピックとの比較表、そして Expo2025 Official Experiential Travel Guides などに万博運営で配慮している点などしっかり出して欲しいというご意見が皆さんから出ましたが、その辺りに関して今どのようにお感じになっているか、コメントをしていただけますか。

事務局 持続可能性部長永見でございます。発信について、浅利委員、ご指摘ありがとうございます。日英ということでもございました。後で教育のところでも触れますが、マスコミに取り上げられていくような工夫も今後していきたいと思っております。シグネチャーパビリオンなど博覧会協会主催のパビリオンのみならず、どこかの段階で、参加国にも希望するところは参加して頂き、資源循環や脱炭素を大きく取り上げて頂けるような仕組みを作りたいと思っております。また情報発信という意味では、ウェブサイトにて今後しっかりした情報提供をしていきたいと思っております。

岡山委員のご指摘ですが、リフィルできる給水機は設置予定ですが、設置箇所数の公表は調整中です。来場者には、マイボトルを持参しようと思えるような形の周知をしっかり図っていきたくて考えています。その際にウェブサイトのしっかりとした作り込みや、マスコミ向けの情報発信をしていきたいと思っております。

また、Expo2025 Official Experiential Travel Guides には、サステナビリティと関係無いものを含めた全般的な情報を掲載します。基準を設けてサステナビリティに関係無いものを載せないという対応は難しいですが、サステナビリティを訴えるものがしっかり掲載されていくように、また、そうしたものがグリーンウォッシュにならないようにし、担当の局と調整していきたいと思っております。

伊藤委員ご指摘の比較表については今後整理していきたいと思っております。全般的には今後の発信についてご指摘いただいたかと思っておりますので、しっかりやっていきたいと思っておりますので皆様もご協力いただければと思っております。

崎田委員長 ありがとうございます。事前のPR的な発信と、来場者向けのしっかりとしたピンポイントの発信と、両面をしっかりといただくということが委員の皆さんからご指摘があったと思います。この後のテーマの中にも具体的に出てきますので、そこでお感じになることなどがあればご意見をいただければと思います。

4.2 ごみの適正処理等に関するガイドライン（初版）について（資料 3-3）

崎田委員長 それでは事務局の方から次のテーマの情報をいただければと思いますが、次が 4-2 の「ごみの適正処理等に関するガイドライン（初版）」をご用意いただいていますので、まずこれをご説明いただけますでしょうか。

事務局 ごみの適正処理等に関するガイドラインについて、博覧会協会中尾からご報告します。まずアジェンダですが、次の 1～3 でとりまとめています。

このガイドラインについては、大阪・関西万博の建設・解体等工事を除く運営期間中において、公式参加者のみならず、一般営業等の参加者、また開催者が運営等を委託された管理業者等を適用範囲としたものであり、ごみの分別、処理フロー等を遵守すべき事項としてとりまとめており、昨年 12 月 22 日に公式参加者等の関係者に英仏版とあわせて発出したものです。ガイドラインの目的ですが、「EXPO グリーンビジョン（2023 年版）」に基づき、SDGs 目標の達成、持続可能性を追求するため、日本国における廃棄物に関する各種法令等を遵守し、廃棄物を適正に処理するとともに、3R+Renewable を推進し、資源循環を行うこととしています。また、指標として、規制と推奨の二つの基準を設定して示しています。

ガイドラインの構成については、まず、廃棄物の種類と定義等を示し、4.以降に分別・分別フローなどの適正処理の手順、食品・紙類・プラスチックなどの廃棄物を減らすための要請事項、産業廃棄物の処理委託等の手続き、ごみの適正処理料金、サブストックヤードの割り当て・受入時間などを記載しています。

ガイドラインに示している概要についてですが、まず「廃棄物の適正処理」については、来場者を除く参加者について、事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならないと規制しており、さらには、廃棄物の再生利用等を行うことにより減量に努めなければならないこととしています。また、廃棄物をできる限り①発生させない、②再使用、③再生利用の優先順位で実行し、更には再生素材の利用を行い、循環的利用をめざすよう取り組まねばならないとしています。

廃棄物の分別ですが、現時点では、参加者は 14～17 の区分、来場者は 8～10 の区分での分別処理をしていただきます。分別をしっかりと実施することで、円滑なりサイクルができ、資源の適正な循環的利用を促していきたいと考えております。

「博覧会会場内の廃棄物の流れ」ですが、会場内には、50 か所の 3R ステーション、11 か所の一時集積場であるサブストックヤード、1 か所のメインストックヤードを用意しています。参加者は自らの責任において、廃棄物を分別区分し、所定の

サブストックヤードに持ち込みしてもらいます。来場者については、3Rステーション内に設置する8～10分別区分数のごみ箱に廃棄してもらい、廃棄物の回収から博覧会協会側で作業を実施していきます。また、分別にあたっては、分別誘導員を配置し、啓発や誘導をしていく予定です。これら回収・持ち込まれた廃棄物は、サブストックヤードで分別状況の確認や分別区分別に計量などを行ったうえで、最終の集積場であるメインストックヤードに集約し、再分別等を行ったうえで、リサイクル施設、産業廃棄物・一般廃棄物の各処理施設に搬送します。なお、参加者が独自に廃棄物を処分することは可能ですが、廃棄物の品目、排出量、処理方法、リサイクル量については報告を求めることとします。また、サブストックヤードで計量した重量を基に参加者に処理費用を請求することとしています。

廃棄物を減らすための要請事項についてですが、会場内で発生する廃棄物のうち、とりわけ発生抑制や再使用等を行うべき廃棄物について、その減量の取組を要請する事項として、食品廃棄物、紙類の廃棄物、プラスチック廃棄物についてそれぞれ示しています。食品廃棄物は、発生抑制として食材の有効利用や売れ残りの削減など食品ロス対策に取組、その削減に努めることとしています。また、再生利用にあっては再資源化できるものは、バイオガス抽出や堆肥化処理を行うこととしており、減量化では、持ち込み前に水切りの徹底などに務めることとしています。同様に、掲示物、配布物等を電子媒体や他のリサイクル可能な素材にすることにより使い捨てとなる使用を抑制することによる発生抑制などを示しています。

サブストックヤードへの廃棄物の排出方法についてですが、サブストックヤードには、参加者に持ち込みしていただくなかで、その搬出方法を示しています。例えば、生ごみであれば、協会が用意するウエイストペールを貸与しますが、その容器には生ごみ以外を混入せず持ち込みいただくことを示すほか、ペットボトルであれば、キャップとラベルを剥がしたうえで内容物が見える袋に入れて持ち込むこととしています。サブストックヤードの割当ですが、参加者の位置ごとに、最寄りのサブストックヤードを定めています。そのサブストックヤードに赤、青のサービス動線を利用して持込んでもらいます。

サブストックヤードの受入時間です。2025年1月13日より受入開始することとしています。当初は一つのサブストックヤードのみで開始し、4月からはすべてのストックヤードを使用開始します。また、開催までは9時から17時までとし、会期中は8時から23時までとしています。その他の関連事項では、参加者は、自らのエリアの清掃を自ら行い、ごみ容器の設置も自ら行うことを示しています。清掃を委託することは可能で、依頼に応じて清掃管理センターが業者の紹介を行います。

最後ですが、会場内の廃棄物・清掃関連施設の配置を示している図です。メインストックヤードは右下「P」の横に示す1か所、赤四角の各所11か所にサブストックヤード、それ以外にも、東西各1か所の計2か所に統括管理部署とする清掃管理センターや清掃員詰所を5か所配置することとしています。以上が、「ごみの適正処理等に関するガイドライン」の概要の報告となります。

崎田委員長 ご説明ありがとうございます。運営に参加する事業者さんに向けたごみの適正処理のガイドラインをご説明いただきました。これに関して質問等あればいただきたいと思います。浅利委員お願いいたします。

浅利委員 ありがとうございます。まずこのタイミングで出していただき、初版ということはこれから修正や反映いただけるということで大変うれしく思っています。私たちの検討自体はできるだけ廃棄物を生みず、資源として資源循環型社会の未来を見せることが大きなコンセプトであると思っています。ガイドラインを見る限りは従来の廃棄物のイメージになってしまっています。可能であればですが、将来の資源循環型社会を見据えて様々な調整をしていきたいという姿勢が表れるようなタイトルや構成をお願いしたいと思っています。あとは、全部細かく見きれていないですが、何かお悩みや調整してみたいことがあったらぜひ事務局に相談してくださいという姿勢で仕上げただけだとありがたいと思いました。

崎田委員長 ありがとうございます。内容はしっかり作っていただきありがたいが、やはり循環型社会づくり或いはゼロウェイストが主眼で、その上での適正処理ということがわかるような書類整備にして欲しいという大事なご指摘だと思います。それでは原田委員お願いいたします。

原田委員 これは今回初めて示していただいて今後の議論になると思いますが、まず一つは当然ですが最優先は「減らすこと」です。各出店者さん或いは事業者の皆さんに、ごみ削減のゼロウェイストに向かうどんなインセンティブをつけていくのが、今の資料を拝見した限りでは詰められていないような気がしますので、ぜひこれからの議論を深められたらと思いました。もう一つが、各施設から出るごみを入れるごみ袋はやはりごみなのか、それとも再資源化できるのかは非常に大事なポイント。塵も積もれば山となるものなので、何に入れてごみを出せば良いのかということも、素材やリサイクルの手法等について、今後、急ぎ議論できたらと感じました。

崎田委員長 重要なお指摘をありがとうございます。ごみを減らすためのインセンティブの検討が進んでいるのかというお話でした。今日の資料の中に、計量をきちんとしていただきその量に応じた処理費用を請求するとなっていますので、一応基本的なインセンティブはできていると思いますが、それを上回る何かがあるかというご指摘

かと思います。事務局に後程意見をいただこうと思います。伊藤委員、お願いいたします。

伊藤委員 ありがとうございます。非常に素人的なコメントで恐縮ですが、ここまで作っていただきすばらしいと思っております。素人的にわかりやすいものという点で言いますと、例えば、ある1日の、一週間の、或いは出店から最後までの時系列の廃棄物を出さないシナリオのような、（朝や夜の）対応すべきことの流れが分かるものがあれば、抜け漏れが起きづらいと思います。主体別にそういったものがあると非常に分かりやすくなると思うので、加えて頂けると有難いと思います。

崎田委員長 ありがとうございます。いろいろ計画しても抜けがあることはあり得ることなので、1日の流れでそういうプランを作っておくなど、いろいろご指摘いただきましてありがとうございます。後程事務局から意見をいただきたいと思います。では岡山委員お願いいたします。

岡山委員 方式については実は愛知万博とほぼ同じなので、私にとってはものすごく理解しやすく想像しやすいものになっていると思います。愛知万博の時のごみの収集並びに資源化等々も、廃棄物管理についてはそのあと5年後の上海万博でもほぼそのまま踏襲されました。そのため、やり方としてはこれでいいのだと個人的には思っています。その上で三つほど申し上げたいことがあります。

まずプラスチック類は参加者も来場者もごみとして出すことになっていますが、徹底した発生抑制というものを考えていくのであれば、使用の相当な制限が必要だと思います。その中で、これまで懸案だった、レジ袋（プラバッグ）、傘袋、プラカトラリーなどは、どの程度使用しないという方向に向かっているのか教えていただきたいです。

愛知万博のときにも、フローを作成し、各パビリオンにマニュアルとしてお配りしました。今回もそう思うと思いますが、その際に各国の方々にも理解しやすいように、最低国連5言語ぐらいで多言語化してお配りするというのが良いと思うのでその準備を進めていただきたいと思います。

最後に、先ほどのところとも関係しますが、例えば愛知万博では生ごみをメタン発酵して得られたバイオガスから水素を排出し燃料電池で発電ということをしていましたので、今回も似たようなことをするのではないかと思います。愛知万博では、会場内でごみ資源ツアーを実施していました。そういったものが、大阪・関西万博でもありたいと思います。

崎田委員長 ありがとうございます。いろいろ細かいご指摘をいただきました。今すでにレジ袋の削減策をどの程度考えているか、資源ツアーをどの程度考えているかなど、準備が進んでいることもあると思いますが、事務局から今の状況だけコメントをいただければと思います。この後の内容などでももう少し詳細なお話をいただければと思います。まずこの段階で、事務局の方からよろしく願いいたします。

事務局 まず総論的なところを永見からお答えします。今回のガイドラインは、委員の方々にご議論いただいたグリーンビジョンをもとに、どうしても出てしまう廃棄物の処理についてまとめたものです。特に2Rの部分は、商業活動に関するガイドライン等、別のところにも記載をしているものであるため、処理に特化した記載となっています。また、当ガイドラインは、持続可能性部ではなく会場運営局が担当しています。そのため、資源循環関係については、営業施設やパビリオンに対し、いかに周知徹底していくかが非常に鍵になると思っています。脱炭素と比べると、とにかく説明し、みんなに知ってもらい、細かい分別もきちんと理解して納得してもらうプロセスが生じると思っています。その際に、当ガイドラインだけでなく、他の商業活動のガイドラインなども合わせて説明し、全体として2Rがまず重要で、最後想定ができなかったものに関してはリサイクルするための分別を行い、どうしてもなかったものについては焼却・埋め立てというところを理解していただくよう、説明会等の周知をしっかりと努めたいと思います。ごみ袋の名称や素材について、考えていけたらと思っています。全体として発生抑制がまず重要だということは、他のガイドラインも含めて考えていきたいと思っています。あとは担当からご説明申し上げます。

博覧会協会志知でございます。その他個別のところですが、一つは、原田委員から、ごみ袋に関して、どのようなものに入れて出せばいいのかというお話があったかと思っています。どういったことをどこまで示すかについて、詳細はまだこれからになっていくと思いますので、定まった段階できちんと他のものと合わせて参加者さんなどにお伝えすることになると思います。また、伊藤委員から、ごみの処理の流れのようなものが作れるのではないかと、そういったことで抜け漏れがなくなっていくのではないかとのご発言をいただいたかと思っています。この辺りも検討は少しずつ進んでいる状況で、現状は実際にごみの処理を担う事業者さんが決まった段階なので、ごみの処理の流れをしっかりと詰める中で確認をしていくことになるかと考えております。岡山委員から何点かございました。プラスチック類に関しては、先ほど永見からご説明いたしましたように、しっかり排出抑制等に取り組んでいくことは考えておりますので、その情報発信をしていきたいと思っています。それに関連して、レジ袋等に関してどういう方向になっているのかというご質問がありました。後程のご説明に含めておりますが簡単にご報告申し上げますと、レジ袋（プラ

スチックバッグ)については、使用を禁止する方向で考えていきたいと思っております。あと、愛知万博を参考に、会場内でごみ資源ツアーなどもあればいいというお話もありました。この辺は後程の教育の部分にも関係するかもしれませんが、会場内でも環境に関連するツアーの組成などの検討を進めている状況かと思っておりますので、その辺りの中でも見ていただけるものを含められるかを引き続き検討していきたいと思っております。

崎田委員長 全体的にリデュース、リユースをしっかりとやっていただいた後のリサイクルと適正処理というお話が永見部長と志知さんからありました。委員からのご発言の主旨から考えて、このような書類をまとめる時に、例えばアジェンダの最初の文章など、説明資料の冒頭に、ゼロウェイストを目指してリデュース・リユースを徹底した上で排出された資源と廃棄物の分別・リサイクルに関してのまとめであるといった事が、どういう人が見てもすぐわかるような一文が入っているというような配慮をしてもらっても良いのではと感じました。様々な事業者さんに徹底する際にこのような資料をもとに様々な準備をされると思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

4.3 万博をきっかけとしたESDの検討状況について(資料3-4)

崎田委員長 次の4.3に万博をきっかけとしたESDの検討状況についてという資料があります。先ほど岡山委員から資源ツアーなどもあればよいのではとお話がありましたが、そのような点にも関係すると思ひますので状況を教えていただければと思ひます。

事務局 資料3-4万博をきっかけとしたESDの検討状況について事務局より説明させていただきます。

万博を活用したESDについては、後ほど説明させていただくグリーンビジョンにおいても、万博における若者、子どもに対する教育について言及しており、2023年度より教育に関する有識者や小中高校の先生方と意見交換会を実施しているところで、本WG委員のみなさまにもご参加いただいております。

直近では、1月16日に第2回の意見交換会をWebで実施させていただきました。本日は、第2回の意見交換会の概要を中心にご説明いたします。第2回意見交換会では、脱炭素、資源循環、全般、ツアー・Webの4分科会に分かれて、意見出しや議論を行い、最後にラップアップを行いました。その際に出た意見を踏まえて、今後の検討事項などについては次のページ以降に記載させていただいておりますが、今後のスケジュールとしては、2024年4月～12月にかけて、先ほどの4分科会で3～4回程度ワークショップを行い、内容を詰めていくことを想定しております。

す。その内容としては、資源循環体験型・脱炭素体験型プログラム、全般を通してとくに意見が多かった防災、食、国際理解特化、人権等の体験プログラム、会場内ツアー・Web作成についてどのように見せていくかなどにより詳細に詰めていく予定をしております。そのうえで、会期直前の2025年1～3月については、ファシリテーターの養成等必要な準備をしていく予定です。

今後の検討課題として、発信したいコンセプト、メッセージをしっかりと考えていこうということで、例えばメッセージに関しては、今地球環境は危機的状況だけれども、希望をもって取組続けるきっかけにするにはどうすれば良いかということや、二つめとして、今行動を起こせばまだ間に合う、という二つの選択肢の帰路に立っていることを認識してもらい、プログラムごとに検討していけないかということなどを持ち帰ってもらい、行動につなげるところまでできれば万博の意義があるのではないかという意見、ほかのパビリオン、他校、他地域、他国との連携も大切になるという意見、事前教育、事後教育との一連の中でどのように組み立てるかという意見、五感をいかしたものにしていくことが大切だといったような意見がございました。そのほかには、資源循環・脱炭素以外にどのようなプログラムを準備するかや、運営方法についても工夫して運営する必要があるといったような意見がございました。

体験型プログラムの議論に関しては、具体的にこのように進められないかということに記載させていただいておりますが、読み上げは割愛させていただきます。

こちらのページでは万博で行うメリットに記載させていただいておりますが、読み上げは割愛いたします。

ここから2ページにわたって、当日さきほどご説明した4分科会で出た主な意見について紹介させていただきます。共通して言えることは、「交流」というキーワードが出ていたということです。資源循環については、「学びの連続性」が大切ということで、事前学習をしっかりと行ったうえで、万博会場へ足を運び、そこで学んだことをどのように自分事化し、未来にどのように生かしていくかをしっかり考える必要があるといった意見や、過去万博の事例を研究して課題を見つけたり、学校外との交流によって学びが深まるといった意見のほか、実際に会場を訪れる方にはバックヤードツアーなどがあれば良いといった意見や、どうしても遠方で会場に来られない方のためにバーチャル会場などWebの活用をしっかりと行っていくことが大切だという意見がございました。その他脱炭素や全般のところ、次のページのツアー・Webのところは記載させていただいているような意見がございましたが、読み上げは割愛させていただきます。

まとめとして、資源循環の分科会で出た意見と重複するところもありますが、脱炭素・資源循環においては、気候変動というところがキーワードとしてあがっており、そのうえで、海ごみ、食、防災のために脱炭素がつながっていく形ができればという意見や、交流の実現や学んだことをアウトプットする場が大切といった意見や、それらに対してインセンティブがあれば良いといった意見や、リアルとバーチャルの両立が必要といった意見や、プロジェクト型、探求学習型などへも間口を広げ、参加できる学校、学生の裾野を広げていくことが大切といった意見がございました。簡単ではございますが、ESDの説明については以上です。

崎田委員長 ありがとうございます。委員の皆さんの中にはこの検討に参加していただいた方も大勢いらっしゃると思います。ここまで議論が進んできて、かなり実施の方向でいろいろ動いているようですが、皆さんの方からご意見いただける方がいらっしゃいましたらぜひ、一言いただければと思います。伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員 中身がとても充実してきており素晴らしいと思っていますが、気になる場所として、来場する子どもたちも、遠方から来る場合もあり、所得などの多寡もあると思われる、子どもたちの来場にあたっての支援、補助、協賛のようなことも検討した方が良いように思います。共感してくださる企業もいらっしゃるのではと思いますので、そのようなことも併せて検討することは必要かもしれないと思いましたので申し上げさせていただきました。

崎田委員長 ありがとうございます。私もそういうことを思っていた時に伊藤委員からズバット言っていただきました。本当に大事な視点だと思います。他の委員の皆さんもコメントがあればいただければと思いますがよろしいですか。岡山委員お願いします。

岡山委員 冒頭の可能性のあるプログラムの中に SAF についてとあったが、気候変動に対する対応も重要な環境教育だろうと私も思っています。その中で、天ぷら油や廃食用油がたくさん出るため、SAF は当然一つのプログラムとしてあることは理解している一方で、脱化石燃料の文脈で考えるのであれば、食品廃棄物からバイオエタノールを作り、ガソリンの代わりにバイオエタノールを使ったハイブリッド車が動くといったような、ゼロカーボン車の提示という方が、より具体的に私たちが何をすべきで何を減らすべきなのかということが分かって良いと思いました。万博の中で使う車両などが、完全なるゼロカーボンハイブリッド車であれば、すごく面白いと思いました。

崎田委員長 ありがとうございます。私は今回これを拝見し小中高校生のプログラムであれば、大学生がリーダーとして一緒に動くという流れを作れば、素晴らしい社会人が

将来たくさん生まれるのではと思いました。それでは事務局の方から、何か一言、どのように受け止めるかコメントをいただければと思います。

事務局 永見でございます。伊藤委員のご指摘ですが、支援をするにしても公平性等の難しさもあると思っています。何かのイベントに出席される方に対する支援を、企業に募っていく方法はあると思います。企業イベントを主催される方々と情報共有して、企業の支援を促していくようなことは出来たら良いと思います。また、岡山委員のご指摘、SAF、バイオエタノールということでございました。後程出てくるグリーンチャレンジでも廃食用油の回収を、SAFもバイオディーゼルも、2000年ごろに1回のブームがあり、一巡してSAFやバイオディーゼルなどの技術の進展などで二巡目の盛り上がりが見えてきました。また政府の目標もあります。グリーンチャレンジでは広く一般に廃食用油回収を呼びかけたいと思っており、資料には使い道としてSAFと記載しましたが、会場の建設機械で使っていただけるような話も、各社ゼネコンで公表されています。今後、会場内で使う車両について、電気自動車になりきらなかった部分については、バイオディーゼルなどの使用を（100%は難しいと思うが）働きかけていきたいと思っています。ただ、私の理解では、法律でいいと言われているのは5%で、あとは法律に書いておらずそれぞれ自らのリスクでやってくださいというのが100%あるという認識でございます。そのため、なかなか100%は難しく、5%であればという声も聞こえてきたりします。100%となるとそれぞれの会社で、自動車メーカーとは別のところで使われる使用者側の責任で実施することになってくると思っておりますので、働きかけてはいきますが、なかなか全部100%でというのは難しいところもあると思っております。また、最後に崎田委員長のご指摘ですが、正直なところ大学生との連携については、現時点では形が作れていませんが、年が近い人からの話のほうが分かりやすいのではないかという意見もあるため、ツアーのガイドをできれば若い人にやっていただきたいという希望を持っています。プログラムは協会が作成しますが、学生に手伝っていただきたいという気持ちもあります。それ以外にもできれば、ゼミ単位での取組を募っていくことも考えて参りたいと思っております。

崎田委員長 ありがとうございます。企業との交流で支援のこと、廃食用油の使い道を多様化していく話、学生も参加できればなど、様々な視点でぜひ検討を継続していただければと思います。委員の皆さんもご発言ありがとうございます。

4.4 EXPO2025 グリーンビジョンの改定について（資料 3-5-2、3-5-3）

崎田委員長 今日の一番中心の話題であります。EXPO 2025 グリーンビジョンについて、ということで、2024年版の案が出ていますのでこれに関してご説明いただき、

じっくりと意見をいただければと思います。ではまず事務局の方からよろしく願いいたします。

事務局 博覧会協会二見からご説明させていただきます。グリーンビジョンの資源循環・循環経済編に関しまして、資料3のEXPO 2025 グリーンビジョン 2024年版、見え消し版を使用してお説明いたします。主にEXPO 2025 グリーンビジョン 2023年版からの変更点を中心にご説明いたします。

まず1点目です。1.資源循環・循環経済をめぐる国内外の動きですが、大きな変更点として、新たに2023年4月に開催されたG7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合と2023年5月に開催されたG7広島サミットに関して記載を追加しております。環境大臣会合では、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブ経済等の、環境目標達成に不可欠な民間セクターのインパクトを最大化することを目的とした、環境経済・資源効率性原則が採択されました。また、プラスチック汚染に関しては、2040年までに追加的なプラスチック汚染をゼロにする野心を持って、プラスチック汚染を終わらせることにコミットしています。広島サミットでは、セッション「持続可能な世界に向けた共通の努力」において、岸田総理から環境に関して「環境汚染の課題にも国際社会が一体で取り組むべきである。循環経済・資源効率性のアプローチが有効であり、取組を強化したい。」との発言があり、プラスチック汚染対策、海洋汚染などの具体的な取組を進めていくために連携を強化していくことについて、参加国・機関の間で共通認識が得られました。その他に関しては大きな変更はございません。

27ページからですが、2.国内外の動きを踏まえた大阪・関西万博の取組の基本的考え方についてです。こちらに関しても大きな変更点はございません。昨年同様に、プラスチック対策、食品ロス対策、紙の使用量削減、施設設備のリユースに関する基本的な考えを記載しております。

続いて、3.会場運営関係の廃棄物等に関して、ご説明いたします。昨年度までは追加的な対策をしなかった場合の廃棄物排出量の推計、および可燃ごみ・不燃ごみ以外は100%のリサイクルを目指すことを示しておりました。今回の改定では主に削減後の排出量推計を組み込みました。また、先ほど「ごみの適正処理等に関するガイドライン」でご説明しましたように、ごみの分別区分の検討が進みましましたので、それにあわせて排出量推計の表を整理しております。具体的には堆肥化可能な食器、紙おむつなどを設けております。この表で示した数値を基に、削減対策を講じた場合の排出量の推計・目標を設定しました。また、削減後の排出量推計に対してリサイクル目標を設定しました。こちらの表になります。各種廃棄物の削減対策を行うことで、全体で約15%を削減目標として設定しています。表に記載している

それぞれの削減目標ですが、次の表に示している削減対策等から推計をしている形になります。ペットボトルであれば、マイボトルの持参推奨や会場内でのマイボトルが使用できる環境の整備、プラスチック類は、レジ袋の使用禁止や容器包装に関するプラスチック類の削減要請、紙類に関しては積極的な電子化等、生ごみに関しては、食品ロス対策のさらなる具体化、燃やすごみに関しては、キッチンカー等でのリユース食器や堆肥化可能な食器類の導入、それに加え、ペットボトルや紙類などの削減対策により、本来リサイクルできるが、汚れなどのために燃やすごみに分別せざるを得なかったものや混入していたものの減少、燃やさないごみ・混合廃棄物に関しては、運営参加による積極的な無償貸与の活用やマッチングプラットフォームを活用した備品のリユースなどが削減目標を設定した種別の主な削減対策になります。具体的な取組は次の節でも説明いたします。リサイクルに関しては、分別区分における「燃やすごみ」と「燃やさないごみ」、「混合廃棄物」以外は会場内の分別・再分別を徹底することでリサイクルの目標値を100%としております。通常であれば「燃やすごみ」となる堆肥化可能な食器等に関しては分別区分を設け、それらを合わせて約65トン、リサイクルする予定としております。「燃やさないごみ・混合廃棄物」に関しては、傘や電池などを分別することで、約19トン、リサイクルする目標としています。この段階での全体のリサイクル率は約57%となります。これはグリーンビジョン2023年版のリサイクル目標から大きく向上しておりませんが、廃棄物の削減目標を設定し100%リサイクル目標の廃棄物も削減を推計しているため、計算上リサイクル率が向上しにくくなっているためになります。

それでは（3）各種廃棄物の削減およびリサイクルの具体的な対策を説明いたします。先ほど削減の推計や対策で説明した部分と少し重複しますが、ご了承ください。2023年度の検討内容の主な進捗として、プラスチック対策は、キッチンカーエリアにおいてもリユース食器を運用する計画の具体化、会場内においてマイボトルを推奨するルール決定・公表、レジ袋・プラスチックバッグの配布禁止等、食品対策は食品廃棄物排出量を可視化する仕組みの導入等食品ロス対策の更なる具体化、食品廃棄物の堆肥化等による全量再資源化の実施等の充実を図りました。まず1) プラスチック対策に関して詳細を説明いたします。「プラスチック対策を中心とした食器類の取組によるごみの削減とリサイクル」を下記のように整理しています。前回からの大きな変更点として、フォーク、スプーン、ナイフなどのカトラリー類についてもリユースするものを使うことを原則とし、使い捨てのものを使用する場合には堆肥化可能なものやその他資源化可能なものとする、箸についてもリユースを原則として、割り箸を使う場合には国産の木材や竹のものを使用する、等を追加しています。「プラスチックを中心とした飲料容器の取組によるペットボトルの削減とリサイクル」に関しては、会場内へのマイボトルの持ち込みが可能となったことが大きな変更になります。「プラスチックを中心とした容器包装、ノベルテ

イ等配布物の対策によるプラスチックの削減」は、会場内で商品を包装する場合は原則としてプラスチックを禁止する。物販における容器包装は博覧会協会の分別区分においてリサイクル可能なものとする。レジ袋・プラスチックバッグの配布を禁止し、エコバッグの利用を推奨する。安全面を考慮しつつ傘袋は極力使用せず傘のしずく取り等の導入を要請する。飲料・調味料・洗剤などは紙パックや詰め替えのものを積極的に使用しプラスチックの削減をする。おしぼりを使用する場合は再利用できる布製のものを優先する。どうしても使い捨てのものを配布する場合は生地に石油由来の成分が含まれていないものおよび包装フィルムはバイオマス由来のものとする、といったこと等を新たに追加しています。

次に2) 食品対策について説明いたします。食品ロス対策として下記を追加しました。開会前に店舗で取り組む予定の食品ロス対策の具体策を記載の上、提出する。会期中には、記載した食品ロス対策に取組、食品ロスの削減に努める。会期中に店舗で発生した食品廃棄物の排出量に関して、食品廃棄物の排出量以外の必要なデータの提出とその利用に協力する。食品廃棄物の排出量のデータを参考にし、食品ロス削減の改善に取り組む。閉会前後に、食品ロス対策に関する調査に協力する。提出資料やデータに関しては、HP や報告書等に公表するよう検討する。などを追加しています。もともと記載していた一般的に店舗で実施されることが考えられる食品ロス対策に加え、店舗で発生した食品廃棄物の排出量のデータの可視化を行い、飲食を提供する事業者には会期中に排出量が削減していくよう食品ロス対策の日頃からの改善を促し排出量の削減を行います。さらに、食品ロスに関する資料の提出などを求め、取り組んだ食品ロス対策などが会期後も記録として残るよう検討していきたいと考えております。会場運営関係の廃棄物等に関しては以上になります。

続いて、4.建設段階から会期後を見渡した施設設備の廃棄物等について説明いたします。こちらは廃棄物発生量等に関しては変更しておらず、主な変更点として、(4) 施設設備のリユースに関する取組と(5) 施設設備のリユースに関する目標を加えています。(4) 施設設備のリユースに関する取組ですが、施設設備のリユースについては、第1フェーズとして、博覧会協会所有のシグネチャーパビリオン8棟、若手建築家施設20棟を皮切りに、順次他の施設も対象に公募にかけ、需要の状況をみながら2段階(先発:自治体他、後発:民間)での公募を実施いたします。次に、外観の飾り、窓等、施設の中でも取り出せるものについて第2フェーズとして公募を検討し、最後に、閉会時に残った什器備品等(引っ越し業者で回収できる大きさのもの)の入札を第3フェーズとして行います。第2フェーズ以降は、Webサイト上にマッチングプラットフォームを制作して、広く入札にけることを周知するとともに、公式参加者や民間パビリオン設置者にもマッチングプラットフ

ォーム参加を呼び掛けます。(5) 施設設備のリユースに関する目標ですが、(4)に基づき行う施設設備のリユースについては、建物自体のリユースと設備についてのリユースと二つに分けて考え、会期直前に設定します。前者については、積極的にリース施設を使うとともに、施設のリユースを進めます。施設のリユースについては、現状ではどれだけの需要があるか見通せず、総量としても概算になってしまうため、絶対量としての目標を検討しており、移築の事例が多い1970年の万博を指標とし、当面は少なくとも1970年の件数を上回ることを目標とします。

次に、新たに追加した章になる、横断的事項に関して説明いたします。1.若者、子どもに対する取組に関してですが、万博における若者、子どもに対する教育の効果を最大化すべく、2023年度より教育に関する有識者や小中高校の先生に相談した結果、体験型プログラム、会場内ツアー、Webコンテンツの3項目に注力して取り組むこととしました。2024年度は引き続き有識者や小中高の先生、学生とワークショップ等を実施して個々の内容を具体化し、教材作成、担当者の教育をする予定です。2.その他(企業との連携等)に関してですが、Co-Design Challenge、会場外ツアー、テーマウィーク等に関して記載しております。1.Co-Design Challengeプログラムは、大阪・関西万博を契機に、「これからの日本の暮らし(まち)をつくる」ことをコンセプトとし、多彩なプレイヤーの共創により新たなモノを万博で実現するプロジェクトで、現在、公募により選定された12事業が着々と進行しております。資源循環に関わるものとして、例えば、「これからのごみ箱(資源回収箱)をデザインする」製作プロジェクトなどがあります。

(2) 会場外ツアーに関してですが、万博を契機とした観光客を会場外へ誘致するために、「Expo2025 Official Experiential Travel Guides」というポータルサイトを博覧会協会が2024年4月より立ち上げます。このサイトに観光商品となる体験プログラムやツアー等のコンテンツを事前登録いただき、会期中に来場者が直接使ったり、旅行代理店が活用したりすることでマッチングを目指すものになります。

(3) テーマウィークに関してですが、これまでも何度かご説明した内容になるので詳細を省きますが、テーマウィークは約1週間ごとに異なる地球的課題をテーマに設定し、解決策を話し合う「対話プログラム」と、具体的な行動のための「ビジネス交流」等を実施するもので、環境課題に関しては、気候変動、資源循環全般も含めて取り組む「地球の未来と生物多様性」や交通の在り方も論じる「未来のコミュニティとモビリティ」、食品ロスなどの問題も含めた「食と暮らしの未来」等が開催されます。

最後に(4)会期前までの検討課題として、会期前までには、会場内において行動変容を促す仕組みの具体化や想定排出量、目標値の精緻化などに取り組んでいく予定です。

続いて、資料 3-5-2 EXPO 2025 グリーンビジョン（2024 年概要版）（案）を用いて、2023 年版からの変更点をご説明いたします。資源循環・循環経済をめぐる国内外の動き及び基本的な考え方に関しては、大きな変更はございません。資源循環に係る排出量推計と目標設定ですが、昨年度は追加的な対策をしなかった場合の廃棄物排出量（BAU）を推計し示していましたが、今回、廃棄物排出量の削減目標を設定しました。また、「燃やすごみ」と「燃やさないごみ・混合廃棄物」以外は 100%リサイクルを目指す等、リサイクルを徹底することで、現在のところ全体のリサイクル目標は約 57%と整理しております。検討中の具体的取組ですが、大きな進捗・変更点としては上部の四角で囲っている部分になります。資源循環型社会の実現に向けて、リユース食器の運用計画の具体化、マイボトルの持ち込み推奨や利用環境の整備、レジ袋・プラスチックバッグの配布禁止、食品ロス対策や食品廃棄物のリサイクルの具体化等の取組を進めたことを記載いたしました。次に、施設設備関係の排出量推計と目標設定ですが、推計値などは変更しておらず、施設のリユースについては 1970 年の大阪万博の実績を参考に目標とする、ということを追記しました。施設・建材・設備機器・什器備品類のリユースへの取組は、新たに追加したスライドになります。現在構築中のマッチングプラットフォームを用いたリユース促進の取組について、記載しています。フェーズ 1 で施設、フェーズ 2 で建材や設備機器、フェーズ 3 で什器や備品の公募を実施する予定です。

なお、1 月 29 日に、大屋根リングのリユース等に関するマーケットサウンディングを開始しました。閉幕後の大屋根リング木材について、構造材やそれ以外の活用提案、また会場跡地内で活用する提案を民間事業者や公的団体等から幅広く募集し、今後の検討に活用していきます。

スライド最後の横断的事項に関しては、新たに追加したものになります。若者、子どもに対する取組、その他として、Co-Design Challenge プログラム、会場外ツアー、テーマウィーク等に関することなどを記載しております。EXPO 2025 グリーンビジョン（2024 年概要版）（案）のご説明については、以上となります。

崎田委員長 ありがとうございます。委員の皆さんから EXPO 2025 グリーンビジョンの 2024 年改定版に関して、ご意見等をいただきたいと思っています。まず原田委員からお手が挙がりましたのでよろしくお願い致します。

原田委員 ありがとうございます。苦言というわけではないですが、リサイクル率が計算上 50%台ということでどうしても低く見えてしまいます。これは様々な課題もあると思いますが、リサイクルのめどがきちんとなつた部分、まだつかない部分があると思いますので、その辺りの議論を深め、さらにリサイクル率を上げられたらと思いました。

細かいところになりますが、表現として、例えばノベルティグッズのプラ包装を原則として禁止するという書き方があり、やむを得ない場合は、ということがありましたが、基本的には「禁止する」と言ってしまってもよいのではと思います。どうしても他に代替するものがない場合は、個別にご相談もあるのではと思います。メッセージが明確に伝わりにくいような表現は、可能な限り避けていただいた方がよいのではと思いました。傘袋についても、「使用せず」とはっきり言い、零取り機を要請する、或いは推奨するというはっきりとしたメッセージが伝わるような表現がよいのではと思います。プラスチックの範囲について、石油由来の従来のプラスチックもあれば、昨今バイオマス素材を使ったもの、或いは生分解性のプラスチックなど、こういったところも現状ではまだはっきりとした範囲がわかりにくいと思いました。例えば生分解性のプラスチックは、皆様もご存知の通り、従来のプラスチックに混ざるとむしろリサイクルが難しくなってしまうたり、バイオマスプラスチックの中には、本当に環境負荷が低いかが疑問なものもたくさんありますので、引き続きここはもう少し厳格なルールをわかりやすくお示しすることが大事と思いました。うちのところでは、一律プラスチック禁止としており、木や竹を強く打ち出していただいているので、あとはそれをはっきりと出店者の皆さんにお伝えできればと思いました。

数字の部分ですが、ペットボトルが562トン以上という点について。今回マイボトルを推奨いただくということですが、これは来場者の皆さんがお持ち込みになる分を想定されているのか、或いは会場販売分がどれぐらいなのかという、想定されている内訳を示していただいた方が、万博の成果もしくは課題としてもわかりやすいと思いました。

最後に、食品ロス対策のところでもナッジの活用も書いていただいていたのですが、例えばごみの名称そのものについて、私の住んでいる京都府亀岡市や、最近では徳島市も燃やすごみの名前を「燃やすしかないごみ」と変えて、それにより、例えば亀岡市の場合でも従来の燃やすごみが20%以上大幅に減ったということもございました。そのため、ごみの名称もナッジを活用することで、特に来場者、出店者の皆さんに対して、リサイクルを促すことに繋がると思いますので、ぜひ今後検討できたらと思います。

崎田委員長 大事なご指摘をありがとうございます。後程、事務局からお話いただこうと思います。次に、岡山委員をお願いします。

岡山委員 ありがとうございます。目標推計と目標についても前回からずっと揉んでいたいて、BAUは愛知万博の数値をそのまま引っ張ってきて、そこからどのくらいという形で推計されていることもよくわかりました。原田委員もおっしゃったように、

私としても傘袋や、先ほど志知さんから話のあったレジ袋禁止については大変いいなと思いましたが、本来であればペットボトルですら私はやはり原則禁止にしたいと個人的に思っていました。

やはり可燃ごみがほとんど焼却処理されることで、結局可燃ごみが多いからリサイクル率が57%と非常に下がることになっているわけですね。確かに少ないですが、可燃ごみの中の木質で作った木の皿や、葉っぱのようなもので固めた皿、木質のカトラリー、割り箸等々など木質のものが、何とかリサイクルされることになっていますが全体で1.9%ということですね。木くずについてはどのような処理をするつもりでしょうか。大阪には、木質ごみからバイオエタノールを製造しているDINS 関西という産廃処理業者があります。木くず、パレットは出来れば全て堆肥にしようとするのではなく、業者によりバイオエタノール化し、さらにバイオプラスチックを作ることが出来れば、プラスチックの原材料が明確になるし、木質由来のバイオマスプラスチックであることもPRできるのではと思います。この辺りのリサイクル方法からもう少しリサイクル率を上げられないかという点で質問させていただきます。

崎田委員長 ありがとうございます。リサイクル率アップに向けて原田委員、岡山委員、皆さんからいろいろお話がありました。伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員 中身については皆様方のコメントが適切だと思います。廃棄物のお話の中で、出店者、事業者の1日に関する話をさせていただきましたが、一方で来場者のありたい行動様式を万博のこの機にお伝えしていくということは大事なことと思っています。グリーンチャレンジがまず外部での行動変容のための指針として示されているわけですが、それと完全に接続されるわけではないかもしれませんが、来場者の行動のありたい姿（例えばペットボトルを持参しないなど）を最初から厳しくお出ししてしまうと、会場にすら来ていただけないこともあるかもしれませんが、どのような出し方をするかはともかくとしてそのような行動変容をこの機会にしていく中身についても、こういったところで充実させていくことは大事と思いました。

崎田委員長 ありがとうございます。重要なお話だと思います。来場者の行動変容を促すためのありたい姿をもう少し明示した方がいいのではないかと。ありがとうございます。原田委員、よろしく申し上げます。

原田委員 今伊藤委員がおっしゃった行動変容について、万博がお弁当の持ち込みを認めるか否かで少し前にニュースになって、結局持ち込みOKになったように記憶しています。どこまで来場者の皆さん全員が全員にお願いできるかわからないですが、例えばお弁当をせっかく持ってきていただくのであれば、たくさんの方がいらっしゃいますので、みんながごみを持ち帰るわけではないと思いますので、そのお弁当の

ごみを通して、みんながリサイクルに親子で楽しくチャレンジしていただける仕組みも、全体の量から見たら微々たる部分かもしれませんが、日々の生活で考え直していただく一つのきっかけづくりになるのではと思いました。お弁当が良くも悪くも注目されていまして、逆にそれをご活用いただけたらと思いました。

崎田委員長 お弁当の問題、確かにニュースで見ましたね。今、委員の皆さんから、リサイクル率のアップに関してもう少しいろいろと考え方があるのではという話や、プラスチックの素材をどのようにきちんと決めていくのか、或いは「禁止」と明確に決めてあるものとぼんやりしているものがあるので明確に言ってもいいのではという話、今の行動変容の話など、大変重要なご指摘をいただきましてありがとうございます。

私から2点ほどお話させていただきたいのですが、1点目は今回の見え消し版を見た際に、1970年の大阪万博と2005年の愛・地球博の数字などをもとに計算している旨が書いてあり、それ自体はいいですが、そこを参考にしながら、よりステップアップすることを考えて様々な仕組みを作っているのが、参考にしたという表現だけではなく、それを参考にし、それを超えるシステムを作るために検討したことが分かるような、新しい生活に向けての頑張りを感じられるような言葉をもう一言入れたほうがいいのではと思いました。

2点目は、東京オリンピック・パラリンピックの時にも資源管理などに関係していましたが、そのときに、金銀銅メダル製作に100%再生資源を活用したり、いくつかキーになる事業もありました。それを踏まえると、今回、リユースに関して頑張っていたら、大屋根のリユースを募集していたり、リサイクルのマッチングプラットフォームを作るなど、広く考えてリユースということに関してかなり頑張ってください。そのため、例えばゼロウェイストを目指した今回の万博はリユース・リサイクルで100%を目指すなど、「リユース」を明確に入れることも一つの発信力の手ではないかと思いました。

私の意見も言いましたが、すべての委員のご意見に関して事務局の方からコメントいただいて、委員の方また何かあれば、追加でお願いしたいと思います。事務局の方よろしく願いいたします。

事務局 博覧会協会志知でございます。リサイクル率に関して原田委員や岡山委員からもご意見があったかと思えます。現時点でお示ししている数字につきましては、過去の博覧会や他のアミューズメント施設の数字を参考に、原単位をベースとして出して、そこから私たちが実施しようとしている現時点の対策を真面目に積み上げて算定したものを現時点の目標としてお示ししたものとなっております。原田委員からもおっしゃっていただきましたが、どのようなごみが出てくるか、なかな

か見えづらいところもある中で、どういったところでリサイクル率を上げていけるのか、できるだけ引き上げていくために何をしていけるのかについて、引き続き検討を進めていきたいと思っております。

原田委員からのプラスチックに関する「原則」禁止という表現については、これまでも他の委員も含めて何度もご指摘をいただいているところであります。メッセージとしては、おっしゃっていただいたように「原則」であることで、使ってもいいというような受け止めにならないような発信をしっかりと意識してやっていきたいと思っております。現実的に様々なケースを想定したときにこのような表現になっている部分がございますが、先ほどのご意見を踏まえて、今後の発信の重要性は先ほどからご意見をいただいているので、しっかりと意識してやっていきたいと思っております。あと、ペットボトルに関して、持ち込み分と会場販売分について、想定されている内訳があったほうがわかりやすいというご意見があったかと思えます。現時点の排出量・削減目標等の数値は、算出方法の関係上、持ち込み分と会場販売分の区別がない状況であるが、今後、会場内販売の状況が見えてきたら、今後の対策の検討に反映していきたいと思っております。また、併せて、食品ロス対策の関連で、ごみの区分の名称についてご意見をいただきました。これはこれまでもご意見いただいていたのですが、先ほどガイドラインの中で分別区分を設けたところについては、すでに現在の名称で参加者に周知しているところですが、ナッジの活用というところで、どのようなことができるかは、引き続き検討していきたいと思っております。

岡山委員から木質のリサイクルに関してご意見をいただきました。大阪にバイオエタノールの製造をやられている事業者さんがいたというご紹介もいただきました。木くずにに関して、基本的に分別されたものはリサイクルする方向です。具体的なリサイクルの方法については現時点では未定であり、今後処理業者を選定して契約していく予定ですので、そのようリサイクルができるのか、また、先ほどご意見いただいたようにリサイクルされたものがPRに活かせるのではないかと、いったご意見も頂戴しましたので、そういったことも含めて検討できればと思っております。

伊藤委員から、会場内での行動様式について、前回もご意見いただいていたかと思えますが、直近の状況で言いますと、来場者に対してお願いするルールが決まり協会として発信したということもございますし、より望ましい行動のあり方は、先ほどの議論とも重複しますが、お越しいただける方にしっかりと伝わりやすい形でお伝えできる方法は、今後開幕までに大事なところかと思っておりますので、先ほどの弁当ごみの話もそうですが、しっかりと検討していきたいと思えます。

最後、崎田委員から、文言を入れた方がいいのでは、というご指摘をいただきました。一旦検討させていただき、またご確認いただけるようにしたいと思います。

弁当の持ち込みに関する報道について、原田委員からご発言があったかと思えます。報道があったのはご発言いただいた通りかと思えますが、現時点の状況として、弁当の持ち込みの方針については、協会としてははっきり定まったものをお示しできていない状況かと思えますが、いろいろ報道も受けて、まだ引き続き検討している状況ですので、その辺りがはっきり確定しましたら、また委員の皆様にご案内をさせていただきたいと思えます。以上でございます。

崎田委員長 ありがとうございます。事務局からの今のお話を受けて委員の皆さん何か追加のコメントある方いらっしゃいますか。伊藤委員お願いいたします。

伊藤委員 ありがとうございます。脱炭素なども含めての全体のプロセスを検討していただき公開しているのは、ワーキンググループも含めて、ありがたい姿だなと思っています。大きなイベントを行うにあたってのサステナビリティの確保に対する現代的な対応というのはどういうもので、どのように行われているのかということをご一般の方々にもわかりやすく示す資料もあったらありがたいと思っています。よくご経験のある方にとっては、すぐわかりやすい部分もあるかもしれませんが、この作業がものすごく大変なことでもあると思うので、それをきちんと様々なことを踏まえて行っているという流れが一般の人にも見えるようになると、行動変容の話に対しても、万博側でもこんなに頑張っているの、行動する方としても頑張らねばと思っただけになるのではというところにも役に立つのではと思えます。今後ぜひ検討ください。お願いします。

崎田委員長 大変重要なご指摘いただきましてありがとうございます。最初のところで、ここまで一生懸命考えてきてくださったことをどのように効果的に発信するか、いわゆる広い発信と、来場した方への発信の両面をもう少し効果的に考えたほうがいいのではというご意見はかなりいただきました。今回のワーキンググループを踏まえては、その辺、今後しっかりと事務局の方でも受け止めていただければありがたいなと思っています。それとともに、今回の2024年版グリーンビジョンの改定に関してご意見を皆さんからいただいたところですが、実はEXPO 2025 グリーンビジョンの改定案は、今日のご意見や議論を踏まえて修正した上で、3月4日月曜日に開催を予定されている持続可能性有識者委員会で事務局から報告をしていただくという流れを予定されています。今日いただいたお話をどのように修正するかという点ですが、すぐに修正できることと、これから事務局内部でかなり検討してからでないと修正できないことがありますので、この段階で、どのようにこれを直すのか、私に一任していただき、事務局と相談をこれからさせていただくという流れにして

いきたいと思いますが、皆さんいかがでしょう。リサイクル率の表現をもっと明確にする、また、リサイクル率を上げるための努力をもう少しして欲しいなど様々なお話がありました。具体的に書き込めること、書き込めないこと、いろいろありますが、今日のご意見は全部しっかり受けとめた上で、事務局と話し合いをしていこうと思っています。この辺の流れに関して、何か特段のご意見があれば伺えればと思いますが大丈夫でしょうか。皆さんに積極的にご発言いただきましたので、その辺しっかり進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

それでは、リサイクル率をどのようにより高めていくのかについては、皆さんでしっかりと検討を続けていただくとしつつ、例えば使い捨て型のプラスチックなど、やめていくものに関しては明確に伝わるような書き方をしていくということ、そして来場者の行動変容を促すようなことに関しては、今どのくらいまでの表現で書き込めるかは分かりませんが、現実の万博内ではしっかりとその辺が進んでいくように、協会の方でも考えていただくように進めたいと思います。

今日は皆さんから積極的にお話をいただきました。ほぼ時間になりましたが、委員の皆さん、或いはオブザーバーで参加の皆さんで今日の話聞いて何か追加で一言コメントしておきたいことありますでしょうか。岡山委員お願いします

岡山委員 冒頭崎田委員がおっしゃったように、今日本は元旦に起こった大きな災害において、深く傷ついているところでもあります。愛知万博は、インドネシアのスマトラ島沖地震並びに津波の大きな被害が2004年12月にありまして、その4か月後に始まった万博だったので、そちらに対する寄り添う気持ちも結構発信されてきました。能登半島地震は日本の地震ではありますが、そこの復興もしなければいけない一方でイベントを開催することになります。そういう時期を考えた時にリユースできる食器をできるだけキッチンで使ってもらう。それはいわゆる瀬戸物の食器も優先的に使ってもらい、どうしてもというときにはリサイクル可能なものを使うという方針はそれでいいと思いますが、できたら、そこで漆器を紹介できる仕組みができないかと思っています。輪島塗は分業体制なので、職人1人を呼べば漆器ができるというものではありません。1年間で大量に作るとすごく難しいですが、しかし例えば組合の職人さん全てを大阪に招聘して、作ってもらえないでしょうか。日本は国土を利用して、山で生えているもので非常に軽くて丈夫で作ることができるお皿や器を従来ずっと使っていました。そういったものも日本のすごく貴重なサステナブルな器であり、一つ一つは高いのでそれをそのまま使って持っていかれるといやですから、何らかのデポジットのような形で、そのような食器を使う、しかもそのような伝統の温故知新な技術があることも紹介できるような仕組みが中に入ったらいいなと思っています。被災地支援にもなるのではと思っています。

崎田委員長 大事なコメントありがとうございます。どうにかして寄り添う気持ちが形に表せたら嬉しいなと思います。その一つの案として、何度も使える伝統的な日本の器として輪島塗も使えないかというご提案、大事だと思います。どうもありがとうございます。

崎田委員長 それでは、今日の議事はここで終了させていただきたいと思います。先ほど来何度も申し上げていますが、発信力の話、発生抑制から始まる3R+Renewableが大原則ということがきちんと常に伝わるように、そしてその上でリサイクル率アップや、使う・使わないという徹底がきちんとみんなに伝わっていくかどうか、そして、今の輪島塗の話もありました。あと伊藤委員からも何度もありましたが、来場した方の行動変容をどのように期待しているのかという点をもう少ししっかりと見える化した方がいいのでは、という大事な話がありました。このようなことを踏まえて今日はまとめていきたいと思いました。委員の皆さん、今日は積極的にご発言いただきましてありがとうございます。事務局にお戻りする前に、永見さん、何か一言、今日のお話を踏まえてコメントをいただければと思います。

事務局 いろいろまだ課題山積というところでございます。いただいたご意見を踏まえて検討して参りたいと思います。プラスチックについて、おっしゃる通りではあると思いますが、技術的に非常に細かいところを詰めたり、傘袋はおっしゃる通りだと思うものの、どこまで手間がかからず会場が汚れず滑らずというところの徹底、扱いたいという側からの不安との兼ね合いなどもしっかり詰めていきたいと思っていますので、ご指摘を踏まえてしっかりやっていきたいと思っています。

崎田委員長 皆さんから意見が出ましたが、その大前提として、ここまで細かく検討し実践の準備を始めてくださっていることは大変素晴らしいと、委員の皆さんからもお声がありました。このまま続けていただければ大変ありがたいと思います。

事務局 崎田委員長、委員の皆様方ありがとうございました。簡単に事務的な連絡をさせていただきます。本日のご議論につきましては、議事録を作成してご出席者のご了解を得た上で、会議資料とともにホームページに掲載して対外的に公表する予定でございます。事務局で内容をまとめまして、皆様にメールでご確認をお願いする予定でございます。ご多忙かと思いますが、議事録のご確認についてよろしくお願いたします。また、追加でのご質問やご意見などがございましたら、一旦今週中を目途にメールなどにより、事務局までお寄せいただければと思います。事務局からは以上でございます。それでは、本日の資源循環ワーキンググループにつきましてはこれで終了させていただきます。皆様、ご参加ありがとうございました。

以上